

図書館だより

第 3 号

昭和 52 年 10 月 15 日

愛媛大学附属図書館

目 次

○ 図書館と私……………	1	○ 二次資料ガイド……………	7
○ 帰省中の E 君への書簡……………	2	○ 二次資料ガイド (その 2) ……	9
○ 専門課程の学生諸君へ……………	3	○ お知らせ……………	12
○ ハワイ大学図書館を 利用して考えたこと……………	4	○ 編集後記……………	12

図 書 館 と 私

工学部長 安 山 信 雄

世に良書と悪書があるとしても、大学の図書館に、いわゆる世俗的な悪書は一冊もない。精選された良書ばかりであるから、手当たり次第に乱読しても、それはそれなりの意味のあることであろう。特に、今日のように、立派な書籍が氾濫している時代において、大学にいながら、図書館を活用しないのは、まことに勿体ない話である。

専門の立場からみても、自分の専攻する領域は勿論のこと、他の領域や学際的なものなど、のぞき見して、充分知識欲を満足させることができる。大学は自主的に学問を研究するところであるから、教師の講義に飽き足りない人達は、図書館に通って、自由に古今の名著に親しみ、学問に意欲をもやしてほしいものである。しかしながら、私のささやかな経験から言わせてもらおうと、図書館には、もう一つの功德があるようである。それは、図書館の雰囲気勉強意欲を大いにふるいたせるものを持っているということである。私共の学生時代、下宿にごろごろしていると、悪童達

につい誘われて、飲んだり、玉を突いたり、麻雀をしたりして、むなしい毎を送りがちであったが、そんな時は、図書館に逃避するのが一番で、猛烈に勉強している法科の学生諸君などをみていると、自分も頑張らなくちゃなどと反省したものである。こうした環境は、昔も今も変わっていないのではなからうか。むしろパチンコやテレビなど誘惑は昔より多くなっているので、自己の意志力だけで律することは、なかなか難しいことであろう。また、物価高の昨今、月末の金欠病保養などにも、文部省推薦の格好な場所であろう。設備も近代化され、冷暖房完備で、わびしい下宿住まいに比べると、大きな魅力でもある。

専門の立場から、何か図書館便りに一筆と、館長さんに頼まれたが、研究室に読まねばならない多くの書籍を抱えて、あまり図書館に出掛けたことのない私には、これが精一杯の PR である。

(工学部教授・交通工学)

(題字・芦田譲治学長 背景・石井進教授)

帰省中のE君への書簡

—読書による主体的自己の確立をめざして—

影 山 昇

E君！ 君もまもなく教養課程を修了され、いよいよ専門移行ですね。

これからは、幅ひろい教養を下敷きにしつつ、旺盛な気力をもって、自己の専門性をより深めていって欲しいと思います。

君が愛媛大学に入学して間もなく、先輩の紹介状をもって私の研究室を訪ねてきてくれたのが契機となり、その後しばしば君と接するようになりましたね。君がつねに自分自身をより高めようと努力している真摯な姿をみていて、私もとても励まされる思いがしました。

想い起せば、君と私が最初に議論したことは、確か情報多量時代である現代をどう生きるかといった難しい問題でしたね。そして、2人の結論は、この情報多量時代こそ、自分達に本当に必要な情報を見極め、選択した情報を自己実現のために積極的に活用する主体的な自己確立こそ大切だということでした。

その次の機会に君と議論したことは、では、かかる主体的な自己は、何時、どんな手段を通じて培われるのであろうかといった内容のことだったと記憶しております。

結論は、よりよく生きる現在の積み重ねにおいて他なく、特に読書のもつ有効性もあわせ説かれました。

また、ごく最近の議論で君がふと漏らしたことの中に、専門移行を控えての読書にまつわる君の悩みが出ておりましたね。

何でも専門移行を目前に控え、これまでの自分の読書行為が無性に無意味に思われてきて読書が手につかず、ここ1箇月ばかりは大学の附属図書館から遠ざかってしまっているということでした。

そこで、この夏期休暇中の作業として

(1) 読書を通じて私達は何を獲得できるか

(2) 読書という主体的行為の段階的分析とその特性の把握

という2人の共通の課題を設定したわけですが、E君はどのように思索をめぐらしておりますか。

私は、自分なりに考え、次のように考えをまと

めてみました。

まず(1)の課題に対しては、次の4点が獲得できるのではないかと考えてみました。

第一に、読書を通じて先人との対話・交流を積極的にはかることができること。

第二には、読書を通じて生きがいをつよめ、自己実現をはかることができること。

第三には、読書を通じて自分の中に蓄積された成果を踏まえ、私達が生まれ、育ち、生活している拠点である自分達の地域社会へのかかわりに対する認識をさらに深めることができること。

第四には、私達の地域社会の中での自分達相互の連帯をつよめ、よりよい地域社会を創出していく活力源にすることができること。

つづく(2)の課題に対しては、読書という主体的行為には次の3段階が想定でき、各段階での特性を明らかにすれば、次のようなことが指摘できるのではないかと考えました。

① 学ぶ段階（門を叩いた者には誰でも、何時でも先人の英知に触れ得ることを保障してくれるところに特性がある。）

② 知る段階（ただ先人の積み上げてきた英知に触れるだけでは満足できないで、その英知を自己の内面に取り込み、文字通り血肉化しようとして努力しているところに特性がある。）

③ 創造する段階（先人の英知に触れ、その英知を血肉化する努力を経て、自己の中に内面化した成果を、日常生活で実践化し、実践の検証を通じて自らを変革し、より確かな自己形成をめざすところに特性がある。）

まだまだ、私の考えは(1)(2)ともに模索の域を出ておりませんが、これからも2人の共通課題に迫るべく努力してみるつもりです。

E君の考えをまとめるために参考にして頂ければ幸いです。

夏期休暇も終わり、E君の考えに接する時を楽しみにしております。

では、残り僅かになった休暇をより有意義にお過ごし下さい。さようなら。

(教育学部助教授・教育史)

専門課程の学生諸君へ

河野博之

卒業生と雑談などをしていて、「大学で聴いた講義は、世の中で余り役に立たない」と言う苦情(?)を聞かされることがある。そこで、講義の実態を改めて振り返ってみると、教官によって収集・整理・要約された情報が補足説明と共に学生側へ一方通行の形で伝達されており、情報(講義内容)の取捨選択について学生達が積極的に関与する機会は、一般に皆無のようである。従って、「学問とは情報を理解することであり、その情報は他人から教授されるものである」と思い込む学生が現れたとしても、決して不思議ではないかも知れない。ところで、講義の形で伝達される情報量は、膨大な学問の諸体系から見れば誠に微々たるものであり、かつまた、極めて基礎的な事項ばかりである、と言えよう。従って、世の中で直ぐ役に立つ情報が僅か数年の間に、必要かつ十分に伝授される筈もなからう。実社会に出れば、時と場合に応じて新しい情報や全く別の知識なども要求されるわけであるが、しかし、自分に講義をしてくれる人は、もはや居ないのが普通である。特に現代は洪水のように情報が氾濫しており、その中から適切な情報を自分自身で能率的に選択して行く必要に迫られるであろう。

このように考えてみると、情報の選択法を会得しておくことも、社会人として極めて大切なことであり、従って在学中、特に専門課程では、その方面の訓練も十分に積んでおくことが望ましい。その第一歩としては、担当教官から推薦された参考書に基づいて、講義内容を自分で補足・拡充して行くことを奨励したいと思う。その前準備として、講義の筆記はノートの偶数頁に限定しておく。次にその内容と対比させながら、自分が書物から採択した情報を見開き側の奇数頁に要約記入して行けば、講義内容の十分な理解にも大いに役立ち、正に一石二鳥であろう。その次には、推薦図書以外の様々な情報源についても、自分で検索してみることである。その方法としては図書館でカード目録を調べる外に、色々な案内書を利用することもできる。例えば、現在市販中の書籍につ

いて言えば、理・医・工・農・教育などの各分野別に「総目録」が毎年刊行されており、例えば「1977年版日本理学書総目録」には、約5,900点の書籍が部門別に紹介されている。また、文献類の活用法については、笹本光雄著「CHEMICAL ABSTRACTSの使い方(地人書館)」、牛島悦子・笹森勝之助共著「科学文献」、川村信一郎著「化学の研究調査と文献」、高橋達郎・広田広三郎・坂本徹朗共著「情報検索の手法と機器」(以上、南江堂)などの解説書がある。さらに、梅棹忠夫著「知的生産の技術」(岩波書店)、加藤秀俊著「整理学」(中央公論社)、平山健三著「知識の整理」(南江堂)なども、情報の収集や整理の仕方などについて、良い参考になるだろう。

専門課程では、英文の書物や新しい学術用語などに接する機会も多い。その場合に、手元の英和辞典を引くだけでは不十分である。科学の学習とは、翻訳することではない。やはり、専門の辞典や便覧などを開いて、科学的な意義や特性なども丹念に調べるべきである。なお、情報類を筆写または引用する場合には、その出典の併記もお忘れなく。

学生時代には、印刷物を権威のある情報源として、とかく妄信しやすいものである。しかし、上述のような訓練を平生から積んでおけば、能率的に情報を取得するコツを覚えるのに役立つばかりでなく、情報に対する総合的な批判力の養成にも、少なからず寄与することであろう。

要するに、講義にばかり頼ることなく、自分自身で物事を調べる習慣を、日頃から着けて欲しいということである。実社会に出た時に物を言うのは、何々学士の肩書ではなく、そのような自主性ではあるまいか。「自分で選んだ書物は?」と聞かれた時、その答が「正直のところ、漫画本だけ」と言うのであれば、余りにもわびし過ぎよう。大学内の所蔵図書も十二分に活用されて、どうか有意義な学生生活を送られるよう、心から強く希望しかつ期待する次第である。

(理学部助教授・化学)

ハワイ大学図書館を利用して考えたこと

佐々木 毅

外国における大学図書館についてご紹介するといっても、私が利用したのはハワイ大学図書館とホノルル市のいくつかの図書館にすぎませんが、これらの図書館について感じたことを述べてみたいと思います。

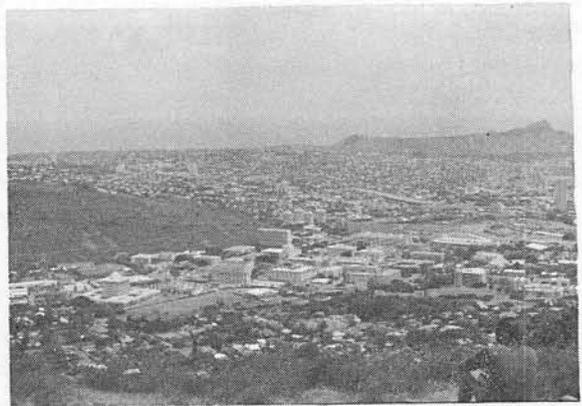
ハワイ大学は1907年に創立されたハワイ州唯一の州立大学です。大学のキャンパスは各地に分かれており、オアフ島ホノルル市にあるマノア本校と西オアフ校、ハワイ諸島中最大の島であるハワイ島ヒロ市にあるヒロ校が4年制以上の大学で、ほかに7つの短期大学を各島各地にようしています。

マノアのキャンパスには図書館が二つあり、キャンパス中央に位置するハミルトン図書館と正門附近にあるシンクレア図書館です。ハミルトン図書館は主として大学院生以上の研究者の利用に当てられ、1976～1977年に建物が倍以上に拡張されました。延面積は愛媛大学中央図書館のおそらく20～30倍はあると思われます。ここには法学部を中心とした人文系、医学部を中心とした自然科学系の蔵書があり、ほかに特別コレクションとして政府刊行物、希観本がありますが、中でもアジア、ハワイ、太平洋関係諸国の図書のコレクションに重点を置いています。これはハワイ大学に隣接して1960年に合衆国下院により、East West Center（東西文化研究所）が設置され、アジア、太平洋海域および合衆国の研究者、専門家および学生等がここに一定期間、毎年約1,500名も集まって、各国民の相互理解を深めるための種々のプロジェクトに従事していますが、ハワイ大学がこれらの事業に対する協力の一つとしてのコレクションです。

このような特別コレクションを有することは、一つの図書館の特色を打ち出せることになるとは思います。潤沢な図書購入費と、コレクションの維持に特定のスタッフを要すると思われるので大学附属の一大研究所でも無い限り、日本では全

ての大学に設けることは難しいと思います。

シンクレア図書館は、学部学生用の蔵書と芸術、建築関係、大学文書あるいは、16mmフィルム、スライド、レコード、テーブおよびビデオテーブ等の器材を利用する視聴覚教育用のコレクションがあります。蔵書はあらゆる分野のものを網羅していますが、大学図書館でありながら子供のための絵本、読物の類さえ英語に限らず世界各国語のものが、特に日本、中国、朝鮮、フィリピン、東南アジアの各国語について用意されていますが、これは各国からの多数の移民から成るハワイの人種構成を反映しており、かつ母国語の教育を等閑にしない州政府および大学の度量が感ぜられました。



タンタラスの丘から見たハワイ大学マノアキャンパス。
右前方にダイヤモンドヘッドが見える。

現在のハワイ大学図書館の蔵書数は約153万冊ですが、学術雑誌等の定期刊行物16,400種を継続購入しており、蔵書数は今後、加速度的に増加するものと思われます。そのため蔵書を格納するための書架の増設と並行して、図書のマイクロフィルム化が実施されており、数十台におよぶマイクロフィルムリーダーが常時使用されていました。

私共の分野で、利用するに当り有難いと思った

ことは、自然科学関係の学術雑誌の種類の豊富さと、その各々の雑誌の第1巻からのバックナンバーが揃えてあること、専門分野毎の成書ならびに、叢書ものが完全に揃っていることで、さらに使用頻度の高いものでは、各巻が数冊ずつ備えられているといった具合に、利用者の便宜をあくまではかられていることでした。

図書館は原則として、特定の祝祭日を除くと年中無休であり閲覧時間は午前7時半から深夜の12時迄であり、学生の試験期には終日開かれています。といっても図書館職員の勤務が深夜にまで及ぶわけではなく、職員の勤務時間のシフト制——いわゆる早番、遅番——と、夜間は図書業務のうち貸出等の基本的なものだけが、学生によって維持されています。学生は殆んど全員が奨学金を支給されていますが、卒業後に奨学金を返還する日本のシステムと異なり、在学期間中に大学で何らかの職務につくこととの交換条件で奨学金が支給されているからです。

図書館の利用状況は一日中活発で、午後12時という閉館まぎわの時刻でさえ、数百名の利用者があります。図書館がこのように蔵書の面で整備されているだけでなく、いつでも利用できる態勢がとられていますと、図書館のもつ本来の機能がフルに発揮されるわけで、その結果、教官でさえも個人で本を購入しなくて済むといった利点があり、図書館の貧弱さの故に高価な専門図書の個人購入を強いられている我々と比較して羨ましいと思ったことでした。

書籍の複写は、図書館の各フロア毎に数台のコイン式ゼロックスが置かれており、伝票の類は一切不要で誰にでも利用できます。1枚5セント(約13円)でコピーでき、夜間でもコピー用紙の補給は学生によって定期的にチェックされています。

ロビーでは定期的に特別展示が行われています。この展示は的が絞られており、たとえば希覓本であったり、日本の陶器を扱ってもある地域の特集であったり、韓国の民間に伝承されている仮面劇に用いられる面と衣裳といった風に、関連する図書と一緒に陳列されますが、これなどは専門家との協力によるところが多いとしても、図書館職員の人的余裕とレベルの高さを示しているの

は無いでしょうか。

さてハワイ大学図書館のほかに、ホノルル市の中央図書館と各地区毎にあるコミュニティーの図書館について述べてみます。官公庁は週休2日で土曜日は休みですが、図書館は土曜日も開かれています。また週日は夜も9時頃迄開館されており市民の便宜が計られています。これも職員の勤務時間のシフト制と、ボランティアによる奉仕活動によるものです。

図書館の蔵書のうち一般的なものは中央図書館と各地区の図書館の間で、一定期間毎に移動させるというローテーションシステムをとっていたり、借り出した図書はどこにでも返却できるといったきめ細かい配慮がなされているのには感心させられました。

また視聴覚教育用の設備もよく整えられており貸出し業務も盛んでした。館内にはビデオテープを何台ものテレビ——ソニーでしたが——で自分で再生し、イヤホンを着用した小学生の姿を見て、アメリカという国のあらゆることに対する蓄積された社会投資と納税者に対する税金の有効還元という姿を見せつけられた気がしました。

小学生の間は、学校からの宿題は皆無で、教科書やノートすら家庭に持ち込まず、手ぶらで通学するといった気楽なものですが、中学生になるとかなりのレポートを宿題として要求されています。宿題が出ますと、即、学校図書館あるいは地区の図書館へ行き、必要とする図書をカードで何冊も探して借り、これらをまとめた後、タイプ用紙で20~30枚にタイプし提出するといった作業を行っています。宿題ができるか否かは、いかに素早く上手に図書館を利用するかにかかっており、画一的な問題集を宿題として、また塾でやらされる日本の子供は全く受身の教育ばかりで何とかならないものかと思われました。このように、小学生、幼稚園生ですら図書館になじんでおり、一冊読了する毎に両親ある場合には近くの大人達との契約で25セントを貰いこれを積立てて、福祉機関に寄附すると言ったコンテストがあったりして、これなどどうかと思いましたが、幼少期より図書館を利用することが身についた習慣となっていることが理解できました。

結局いかなる図書館でも、その存在価値は図書

館が最大限利用されるという状態に維持されることに尽きると思います。ハワイ大学での同僚から聞いた話ですが、ノーベル賞受賞者として名高い生化学者、セント・ジョージのいる海洋研究所の図書館は年中無休で、館員が帰宅し無人になった後の夜間でも自由に利用できるそうです。蔵書の管理の面から危惧があるとしても、研究所員にとって図書館の利用できる時間が制限されることは、図書館の存在する目的に沿わないとする考え方を実践しているようで、これなどは、いかにもアメリカ的合理主義の発露だと言えそうです。

日本においても大学を含めた公共機関の図書館の充実が要望されることは論を待たないと思います。大学あるいは官公庁の建造物が立派であったり、また事務機構の複雑さとそれを維持するために幾ら人員をかかえていても、何らほめられたことではなく、大学の場合は、特に図書館とか欧米諸国に比して、誠に貧弱な学生のための施設の拡充こそが先決であると思いますがいかがでしょうか。

終わりに、これまで述べてきましたことを参考にして、大学図書館はどうあるべきかについて思いついたことを提案してみます。

1. 校費で購入した図書は、研究室と言えども必要最少限を残して図書館での公開をはかること。図書目録にはあっても研究室に保管されているため探して廻ったり、教官が不在であれば利用できなかったりで、あまりにも図書が私物化される傾向があります。図書はあくまで共通の財産です。

1. 研究室単位で購入するような雑誌類の重複を極力避け、新刊雑誌類も図書館に開架する。

1. 先の項目を実現するためには、図書館利用者の時間的便宜をはかるため開館時間の延長を可能な限り行う。さらに日曜あるいは祭日も朝は遅くとも良いが開館すること。

1. 夜間および休日の開館中の図書館業務は基

本的な、貸出し、閲覧、複写等にとどめてもよいが、図書館職員の過剰労働を避けるため学生アルバイトを積極的に採用すること。

1. 図書館は今後益々その業務内容の多様化が予想されるので、図書館職員の増員は言うに及ばず、専門分野の異なる学卒職員を採用し、これら職員に対して国内および国外研修を他の部門の職員より優先させ、職員の質的向上を計り、図書館そのものを高度な研究機関とする。

以上は図書館のあり方を考えている専門家によって既に検討されていることだと推察いたしますが、敢えて私の考えを述べてみました。

大学全体のあらゆるバックアップが無ければ、図書館の発展は、「百年河清を待つ」ごとき状態に留まることと思います。

(ささき・たけし 農学部助教授・応用微生物学)



ハワイ大学ハミルトン図書館
図書館は右手奥に広がっている。
花はハワイ桜、当地の人はテコマ
と呼んでおり4月に咲く。

二次資料ガイド —専門課程移行学生のために—

今回は医学・生物学系の二次資料について二、三紹介することにしました。

Index Medicus

本誌は米国の National Library of Medicine (NLM) から出版されている医学生物学の分野の代表的な索引誌です。月刊版と、1年分をまとめた集積版 Cumulated Index Medicus (CIM) が出版されています。世界中で発行される医学生物学の分野の雑誌のなかから、約2,300タイトルを選んで掲載されている論文・記事、約240,000件を索引しています。日本の雑誌は100誌が索引されています。本誌は、Medical Subject Headings (MeSH) と呼ばれる件名表によるアルファベット順排列 (Subject Section) と著者名のアルファベット順排列 (Author Section) から構成されています。収録されている雑誌名は、毎年1月に発行される List of Journal Index in Index Medicus にリストされており、また月刊版の1月号にも載っています。索引された個々の論文・記事についてどのような情報が得られるかという、論文・記事の著者名、表題、収録誌名、巻、号数、発行年月、頁数及び論文の書かれている言語の表示等です。抄録や本文は含まれていません。

Quarterly Cumulative Index Medicus
1 [1927]-60 [1956].
Cumulated Index Medicus.
1 [1960]-15 [1974] +
Index Medicus.
15(4) [1974]-18 [1977] +
(医学部図書館所蔵)

医学中央雑誌

本誌は現在日本において発表される医学・歯学・薬学ないしその隣接領域における資料約1,600誌(和文1,460誌, 欧文140誌)により年間約120,000件の文献を抄録収載しています。

4 [明39], 7-346 [昭52] +
(医学部図書館所蔵)

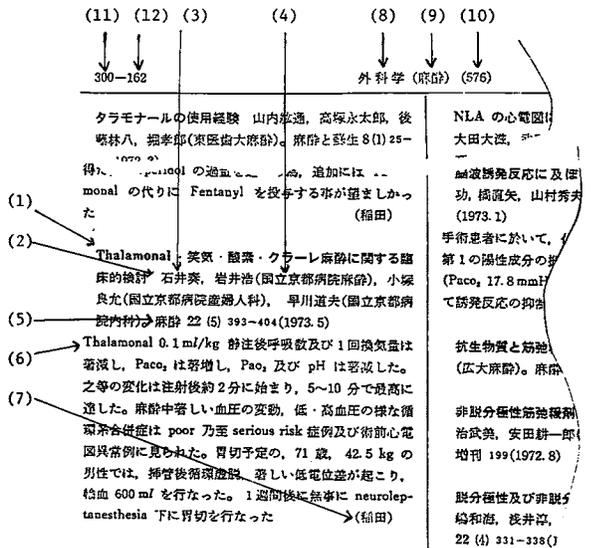
[例]

「Thalamonal・笑気・酸素・クラレ麻酔に関

する臨床的検討」石井奏・岩井浩・小塚良充・早川道夫著の論文を検索する場合。

- (1) 著者がわかっていて論題不明の場合は人名索引で調べます。(下図)
人名索引は各文献の著者の先頭者名のみが掲載されています。(図1)

- (2) 論題から検索する場合は、物件索引で調べます。(下図)
物件索引は、各文献の標題中からキイ・ワードを抽出し(1文献当たり約1~4件), それらを欧文・和文に大別し、それぞれ索引に掲載しています。(図2, 図3)



- (1) 標題 (2) 原報使用用語の別, 原報の種類別 (3) 著者 (4) 著者の所属 (5) 原報発表誌名, 巻, 号, 頁, 発行年月日 (6) 抄録文 (7) 抄録者 (8) 部門 (9) 分類 (10) 部門の通し頁 (11) 巻数 (12) 通し頁

図 1

イ (伊居猪及飯家庵筏誕生池石)

300 巻人名索引

伊藤孝一 681	及川 (オ部を見よ)	池田精一郎 402	石川清文 569
伊藤孝徳 150	飯照彦 765, 788	池田碩二 71	石川紘一 755, 757, 786

(中 略)

伊藤正義	庵原昭一 114, 115	石井淳一 183, 216	石沢栄次 16, 20, 38, 42
伊藤正義 146	筏義人 727	石井清一 249	石沢久 428
伊藤雅治 167, 211	碓泰輔 262	石井奏 160, 162, 176, 193, 212	石路正 533
伊藤美幸男 146	生田香明 384	石井威望 185	石田修 92
伊藤幹雄 732	生田茂 598	石井哲也 192, 211	石田清 148
伊藤盈爾 180, 195, 197	生田久年 260, 264, 293	石井哲郎 549	石田邦輔 66
伊藤光信 146	生田義和		

(下 略)

図 2

300 巻物件索引

シ (小少生昇松消笑焦踵上)

沢, ~) 825 —運動門脈血中酸素量変化 (銭場, ~) 351	消炎剤 (加藤, ~) 737, 761 — (紺野, ~) 701 — (鶴藤, ~)	抗—作用-Glycopyrrolate (鍵和田, ~) 820
---------------------------------------	--	----------------------------------

(中 略)

—外科的疾患 (古味, ~) 148 —外科的疾患 (虎谷, ~) 149 —悪性腫瘍 (塙) 108 —麻酔 (岩井) 152 —麻酔 (松尾) 152 —麻酔 (宮崎) 152	—ホルモン (小林) 349 —ホルモン (斎藤) 354 —ホルモン (内藤) 354 —ホルモン (中山) 349 —ホルモン (藤田) 349	笑気 (滝口, ~) 161 — (日吉, ~) 160 —麻酔 (石井, ~) 162 —麻酔 (保谷) 158 —麻酔 (松田, ~) 162 —アノキシア (宮田, ~) 172
---	--	---

(下 略)

図 3

マ (麻)

300 巻物件索引

— (武下, ~) 156 — (津田, ~) 168 — (並川, ~) 168 — (並木, ~) 165 — (長谷川) 168 — (藤原) 168 — (古川) 168	持続仙骨— (肥後, ~) 153 腰椎— (吉村, ~) 153 腰椎— (若杉, ~) 167 —アナルゲジア (鈴木, ~) 162 —NLA (有光, ~) 160 —NLA (石田, ~) 162	タラモナル— (玉真, ~) 162 タラモナル— (前田, ~) 162 タラモナル— (山内, ~) 162 Thalamonal・笑気・酸素・クラレ— (石井, ~) 162 CT-1341— (高橋, ~) 154, 155
---	--	--

(下 略)

二次資料ガイド (その2)

BAとBIの使い方

Biological Abstracts 及び Bioresearch Index は、生命科学全般（生物学・免疫学・寄生虫学・生態学・遺伝学・植物学・動物学・生理学・代謝・公衆衛生・耕種学・森林学・土壌学・園芸学など）をカバーする大規模な索引抄録誌です。ここでは、その構成と目的について簡単に触れ、さらにその検索法を示しました。研究に不可欠のこれらの索引の使い方をマスターするための一助となれば幸いです。

1) Biological Abstracts. (以下BAと略)

BAは、論文の抄録(Abstracts)と4種類のIndex からなり、月2回刊行される包括的抄録誌です。抄録は、世界中で刊行される雑誌約8千誌の他、図書・学位論文・レポート・議事録などを対象とし、年間約14万件が主題別に配列されています。BAは次のように構成されています。

- 目次：Subject Categoryの概要(A B C 順)
- 新着図書・雑誌のリスト
- Abstracts. (Subject Category別)
- 索引：a. Author Index (著者索引)
- b. Subject Index (件名索引)
- c. Biosystematic Index (生物分類体系索引)
- d. Cross Index (Computer Rearrangement of Subject Specialities. 相互参照索引)

2) Bioresearch Index. (以下BIと略)

BIは BAに抄録として掲載されない文献の論文、約10万件に対して、その書誌的事項を伝える月刊の索引誌です。収録の対象は議事録・評論・書簡・ノート・予報・ブックレビュー・ややポピュラーな記事・年次報告・政府出版物の抜粋・2次資料の抜粋などで、次のように構成されています。

- 目次
- 掲載出版物の略誌名による索引(A B C 順・標題コード付) List of Publications

Indexed.

- Bibliography：雑誌名・年間通し番号・著者・論題・Keyword・巻次・頁。

- 索引：BAと同じ。

a) Author Index.

この索引は、論文の著者をA B C 順に並べたもので、BA・BIの各号に付いています。複数著者の場合は、各々誰からでも検索できるようになっています。また、文献を直接依頼できるよう、アドレスがBAの各抄録の標目(代表著者)の後に()で囲んで略記で記載されています。

b) Subject Index.

これは、論文で主題を表す重要な語群(Keyword)によって検索する索引で、BA・BI各号に付けられています。このKeywordは、前後に修飾語を伴い、頁の一定の位置にA B C 順 [KWIC—Keyword In Context—方式] に並べられています。また、論文中に含まれる数だけのKeyword がそれぞれの場所に編成されています。

Keyword は次のような語から選ばれています。

- 有機体の一般的呼称、学名。
- 薬剤およびその帰属認定。
- 化学薬品一殺虫剤・発ガン物質・酵素と酵素委員会番号など。
- 使用される機械器具。
- 方法論。
- 地理的位置。
- その他の索引述語—Abstracts, Review, Bibliographyなど。

その他、索引中に使用される略語などには次のような特徴があります。

- 図—1 (薬品の索引)
- 図—2 (化学記号, 元素名, 基および化合物)
- 図—3 (同義語)
- 図—4 (結合語)
- 図—5 (語の分割)

◀検索法▶

- ①まず、あなたの興味や問題を表す索引述語

図-1

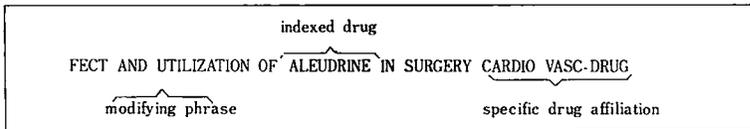


図-2

化学記号，元素名，基および化合物は，省略せずに記入されています。

Beta-glucuronidase for β -glucuronidase
Sodium chloride for NaCl

図-3

EXAMPLES

**ERYTHROCYTES-RED BLOOD CELLS
ELECTRON MICROSCOPY-ULTRASTRUCTURE
GERIATRICS-AGING
CELLS-CYTOLOGY**

のを切り捨ててゆきます。

⑤ 1 番頻度の少ない参照番号と 2 番目のものとは対応させ，重複番号だけを残します。

⑥ 表中のすべての索引述語に対しこれを繰り返す，最後に残された番号に対応する記述を BA・BI の Abstracts, Bibliography 中から選び出します。それがあなたの研究に関連ある主題分野の文献となります。

図-4

EXAMPLES

NUCLEIC-ACID	IN-SITU
ESCHERICHIA-COLI	IN-VITRO
IRON-59	IN-VIVO

c) Biosystematic Index.

この索引は，分類学上のカテゴリー（門・綱・目・科）別に参照番号を配列したもので，BA・BI の各号に付いています。索引には論文中に含まれる有機体はすべて含まれます。また，その分類が新しく同定されたものである場合は，※印が付けられていますので，有機体の分類体系上の位置と，研究対象中の主要なカテゴリーを結びつけることもできます。

図-5

EXAMPLES

CARDIO VASCULAR	MONO AMINE OXIDASE
MICRO FAUNA	POLY MICROBIAL
	HISTO AUTO RADIOGRAPHIC
	DI METHYL SULFOXIDE

《検索法》

①あなたが研究の対象としている有機体について，その属している分類体系上のカテゴリーを表す見出し語を調べるには

1. 索引中，該当すると思われるカテゴリー群に現れる，すべての参照番号を抜き出します。

(例) 図-6

2. 有機体相互の関係に関する研究を調べるには，索引中の，相方のカテゴリー群に現れる番号のうち，重複する参照番号を残しません。

(例) 図-6

3. 新しい分類単位に関する研究報告は，※印

(同義語・複数形・形容詞などを含む) の表を準備します。

②この表をSubject Index の検索ラインの右側にある語と照らし合わせ，一番頻度の少ないものを選び出します。

③その場合，修飾語が有用な述語を含んでいれば，その参照番号も抜き出します。

④検索欄中に望む語が見られない時は無関係なも

問題が有機体の分類学上の集団を含む領域（例えば、属一種、化学上のDNA、地理学的位置）と、他の領域（発生学・放射線・生理学）を包括している研究の場合、より有効です。

このように、あなたの研究対象に応じた検索方法をマスターすることにより、より正確に、速く目的の情報に到達する事ができるのです。

4) 検索の前に

現在、図書館では、BA・BIを次のように所蔵しております。

本館 BA : 10(1936) - 12(1938)

農学部 BA : 25(1951), 28 - 33(1959)

Sect.B

25(1951), 28 - 33(1959),

36(1961)

お知らせ

○国文学研究資料館の利用について

全国の国文学研究者の多年の要望であった国立の国文学研究資料館が7月25日に開館しました。本館は、江戸期までの日本文学の文献資料と、これに関する研究を広く収集整理し、研究者の利用に供しようとするもので、今後古典文学の研究者は大きな利便を得ることになりました。

場所は東京都品川区豊町で、大学生が利用するには、附属図書館の紹介状を持参すると好都合です。利用できるのは文献資料（マイクロフィルムによる）のほか、古典に関する研究書・参考図書・逐次刊行物（雑誌・紀要等）です。

利用の詳細については、参考調査係におたずね下さい。（「マイクロ資料目録」もあります。）

○卒業論文等作成のための特別利用について

4年生以上の学生は特別利用証の交付を受ければ、書庫内の図書を1箇月間借受けることができます。又、書庫に入って図書を閲覧することもできます。なお、書庫内は次のように排架しております。

- 一層：和文欧文学術雑誌，国立大学紀要
- 二層：総記，哲学，歴史（NDC 6版），芸術，語学，文学（NDC 7版），公私立大学紀要，官公庁出版物
- 三層：社会科学，自然科学（NDC 6版），総記，哲学，歴史，社会科学，自然科学，

医学部 BA : 55(1973) - 58(1974) +
(Lack 58(5))

BI : 8(1972) - 10(1974) +

※実際に検索する場合、ここでの説明だけでは不十分で戸惑われるかもしれません。その時はまず聞く事から始めてはいかがですか。研究室の先生方はもっと簡単なコツを御存じかもしれませんし、他の有効な方法・他の検索ツールを駆使されているかもしれません。それは、自然科学系の研究者にとって、こうした情報検索が不可欠の事となっているからです。図書館でもこの文献探索に力をお貸ししようと準備を進めております。そうして得た情報をあなたが十分活用され、研究の成果を上げられる事を期待いたします。

工学，産業（NDC 7版）

四層：工学，産業，芸術，語学，文学（NDC 6版）

五層：洋書，和装本

○和文雑誌目録の刊行について

このほど和文雑誌目録の刊行を計画し、その所在を明らかにするため、さる9月中旬から各研究室へ雑誌の照合点検に伺っております。

この和文雑誌目録の刊行は昭和38年8月以来14年ぶりの改訂で、今まで利用者の方に変な迷惑をかけていましたが、今回の改訂版で、より有効に雑誌を利用していただけるものと思います。

刊行は昭和52年度の末の予定です。よろしくご協力下さい。

編集後記

勉学にふさわしい時候になりました。今号は後期授業の開始にあわせて、専門課程に移行する学生諸君をおもな対象に考えてみました。教官からのアドバイスもありますので、参考にしていただきたいと思います。

愛媛大学附属図書館報「図書館だより」

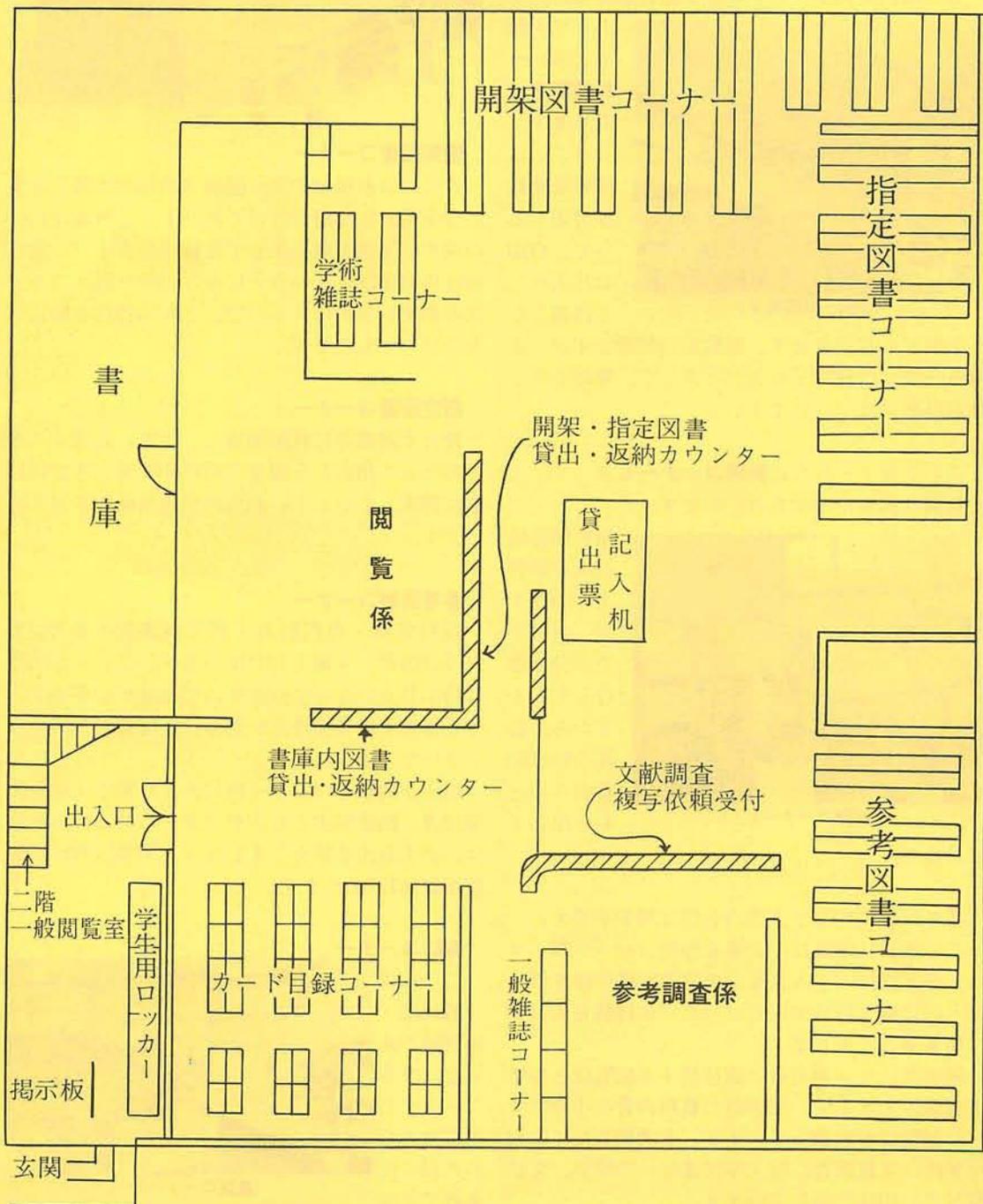
第3号 昭和52年10月15日発行

発行 愛媛大学附属図書館
松山市文京町3番
Tel 0899-41-7111

図書館散歩 (1) 参考図書関係

オリエンテーションの際、一応図書館のことは描いてみました。少しでも早く自分の求める資料に近づき、上手に図書館を利用してほしいもので話しますが、なかなか頭に残らないものです。図書館に入って迷わないために簡単な案内図をす。

(一階開架室案内図)



図書館散歩(2)

大学の正門を入るとすぐ右手にある4階建の一見国立国会図書館を思わせる建物、これが愛媛大学附属図書館です。しかしこの建物のうち図書館は1・2階で、3・4階は法文学部の研究室です。

まず玄関を入りトントンと2階に昇って、左手



(2階一般閲覧室)

のドアを開くと広い一般閲覧室があります。

ここには閲覧座席数が476もあって、自由に出入りして読書したり

学習したりできます。閲覧室は禁煙ですが、2階ホールには長椅子が並べてあって、喫煙できる休憩場所になっています。

この2階ホールには**新聞コーナー**もあって、主要新聞9種類が掲示されています。



(新聞コーナー)

毎朝閲覧係の人が取替えています。前日までの分は保存していますから、必要な時は閲覧係へ申込みと出して

くれます。

さて一階に戻ると玄関の右側は開架室です。

この室には閲覧に不必要な持物(バック類・コート等)は持って入れないので閲覧係で鍵を借りて入口に備え付けてあるロッカーに持物を入れて(開架室に)入ります。

開架室には、利用者と直接接する閲覧係と参考調査係があります。図書館の資料の貸出手続はすべて閲覧係が取扱っています。参考調査係では利用案内、文献調査、他大学図書館への照会、文献複写等の相談に応じています。



(開架室)

開架図書コーナー

ここには利用度の高い図書(約42,000冊)を主に学生用として備え付けてあります。自由に自分の求める図書を取り出して閲覧できますが、閲覧後は排列を乱さないようにもとの所へ返すことが次の利用を容易にするので、これは各自が特に気をつけたいものです。

指定図書コーナー

教官が講義等に直接関連して学生に必読すべきものとして指定した図書(約12,000冊)を学科目別に排架しています。利用の要領は開架図書と同じです。

参考図書コーナー

百科事典・専門辞典・語学辞典等の参考図書(5,200冊)を備え付けています。これらの図書は持出禁止になっていますので注意が必要です。やむを得ず借り受けたい場合は、係員に相談するとよいでしょう。

以上が閲覧カウンター内にある資料ですが、開架図書、指定図書ともカウンターの外に持出す時は、必ず貸出手続をしましょう。開架室内にも閲覧席数は120あります。

雑誌コーナー

ここには一般雑誌・週刊誌があって、フラワースタンドに並べられた緑に囲まれてくつ



(雑誌コーナー)

ろいで雑誌を読むことができます。
原則として雑誌の館外貸出はしていません。
学術雑誌はカウンター内の左側にそのコーナーが設けてあります。

この他に図書館には5層の書庫があって、約20万冊の図書が納められており、各学部研究室にも17万冊の図書が貸出中になっています。図書館ではこの書庫内の図書を他の図書と区別するために「一般図書」と呼んでいます。これらは利用者が直接自由に取り出せる仕組みにはなっていませんので、カード目録で必要な図書を検索して貸出手续をしなければなりません。

カード目録コーナー

開架図書にも指定図書にも求める図書が見つからない時、あきらめるのはまだ早いのです。書庫の中にあるかも知れないし、研究室貸出の中にあるかも知れません。そんな時にカード目録を使用すると便利です。書名・著者名・分類の3種類がそれぞれの基準によって排列されています。



○書名カード
書名のアルファベツ

ト順に排列してありますので、書名の分かっているものについて検索できます。

○著者名カード

著者名のアルファベツ順に排列されています。著者名ばかりでなく、編者・訳者・団体名等からも検索できます。

○分類カード

図書を日本十進分類法(NDC)7版によって分類していますので、その記号順に排列しています。これは書名も著者名も分からない場合でもその主題によって検索出来ます。NDCについては、カードボックス横に主綱表が貼ってありますので参考にし、分からない時は係員に相談すると、ていねいに教えてくれます。

なお昭和38年度までに受入整理された図書はNDC6版で分類し、書名・著者名カードは五十音順に排列していますので、昭和38年以前に出版された図書を探すときは6版と7版の両方を探す必要があります。カードをひいても求める資料がない時は、参考調査係に尋ねると他の図書館から借りられることもあります。

以上、図書館の仕組みの大体を説明しました。なお分かりにくいことは、何でも館員に聞いて下さい。みなさんが図書館を積極的に利用されることを切に望みます。

実際に図書館を利用するために

では実際に図書館を利用するために最少限知っておきたいことは、

○開館時間

曜日	授業期	休業期
月～金	9時～21時	9時～17時
土	9時～21時	9時～12:30時
日・祝日	9時30分～17時	

○休館日

開学記念日、休業期の日曜日、

年末年始(12月28日から翌年1月4日まで)等

○館外貸出冊数と期間

種類	冊数	期間
一般図書	5冊	7日以内
開架図書	5冊	
指定図書	2冊	

○図書利用証

学生証をもって図書利用証とします。

○貸出手続

館内閲覧と館外貸出があります。館内閲覧は当日の閉館時刻までの利用のことで、開架図書・指定図書は自由に取り出し、一般図書(書庫内)はカード目録で検索して、それぞれ「館内閲覧票」に所要事項を記入し、「学生証」を添えて係員に

提示して下さい。館外貸出の手続は館内の場合と同じですが、「館外貸出票」と図書の裏表紙の内側に貼ってある「貸出期間票」に所要事項を記入して下さい。開架図書・指定図書をカウンター内で閲覧する場合は、この手続が省略出来ます。一般図書の貸出取扱時間は9時から17時まで（土曜日は12時30分まで）昼休みは除きます。

図書館から利用者へ

図書館を利用するについては下記のことを気をつけて下さい。

○開架室へ入室する時は、コート・袋物等閲覧に不必要なものはロッカーに納めて下さい。

○学習に必要な図書を持ち込む時は（図書館で借りた図書・個人の図書ともに）カウンターに備え付けてある「持込図書記入簿」に記入して下さい。

○下駄ばきで入館したり、館内での貼紙、ビラの配布はできません。

○館内は静かに利用したいものです。放談したり、他人に迷惑をかける行為は慎んで下さい。

ロッカーの利用

図書館を利用する時のみに使用して下さい。

閲覧係で鍵を借りて開架室入口のロッカーをご利用下さい。

鍵は使用したロッカーに施錠して閉館時刻までに必ず返却して下さい。

○返却について

館内閲覧した図書は閉館時刻までに、館外貸出を受けた図書は期限までに必ず返納して下さい。開架図書・指定図書については返納印を受けた後図書返却棚へ返して下さい。

なお期限までに返納しなかった場合は、遅れた日数だけ利用を停止（学生証一時提出）することがありますので、ご注意下さい。

サービスのいろいろ

図書館では学生の利用に対して積極的に各種のサービスをしております。

○休業中における長期貸出

夏季・冬季の休業中の長期貸出は夏季は2箇月、冬季は2週間の長期貸出をします。

◎ただし春季は照合整理等のため貸出はしていません。

○卒論のための特別貸出および書庫内検索

4回生以上の方が卒論のために必要な資料は特別扱いとして1箇月間の貸出をし、また書庫に入って図書を選択することができます。

○文献複写のあっせん

求める文献が学内にない時は参考調査係へご相談下さい。所蔵機関を調査して複写依頼の手続をします。費用はすべて申込者の負担で、現金による送金になります。

○他大学の資料の利用

休暇中に帰省先の大学を利用したいとか、他の大学の図書を利用したい時、紹介状を出したり相互貸借で借りることができます。